

【境港 RORO 船航路の定期化に向けた今後の取り組み（まとめ）】

把握された課題	課題解決に向けた方向性	定期航路化に向けて必要な取り組み（●実施中、○今後実施検討）	H 2 7 予算事業
貨物量の確保	<ul style="list-style-type: none"> 国内 R O R O 船の航路誘致に向けた試験輸送の継続実施による認知度の向上 集荷活動による消席率の向上 他港との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ●物流実態調査や輸送ニーズを踏まえた試験輸送の継続 ○境港背後圏における産業特性に対応した寄港地、航路の設定 ○複数船社の協力体制による運航船舶の確保 ○集荷、ポートセールス体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> 山陽エリア、九州エリアおよび北海道エリアへの営業 運輸関連事業者と商議会や荷主企業を含めた官民一体の誘致推進 ○背後圏の拡大（山陰エリアにとどまらず山陽エリア、九州エリアへの拡大） ○季節波動の解消 <ul style="list-style-type: none"> 通年でのベースカーゴの確保 特定荷主に頼らない幅広い貨物の確保 ○往復貨物のバランス <ul style="list-style-type: none"> 発地（中国、九州エリア、）着地（北海道エリア）の双方でのバランスの取れた集荷体制 	<ul style="list-style-type: none"> 国内国際フェリー-RORO 船誘致・連携事業（管理組合） ポートセールス体制強化事業（管理組合）
既存ルートと競争力のある物流サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 定期化を見据えた料金設定 行政支援のあり方検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○利用拡大を図る料金設定 <ul style="list-style-type: none"> 中小事業者の多い境港背後圏の産業特性に対応した、シャーシ 1 台に満たない小口貨物への対応 運航船社自身による荷主、トラック事業者への集荷活動の推進 ○モーダルシフト荷主に対する補助制度の創設 <ul style="list-style-type: none"> 陸送貨物を境港利用の RORO 船輸送へシフトさせた荷主へのインセンティブの設定 ○荷主に対するボリュームインセンティブの設定 ○境港背後圏における産業特性に対応した、特定品目へのインセンティブの設定 	<ul style="list-style-type: none"> 物流基礎調査（国交省）
輸送用車両確保と物流拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> 境港側の陸上輸送部分のシステムづくり RORO 船に対応した施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○境港背後圏における取扱貨物の特性に応じた輸送体制の構築 ●貨物量に応じたシャーシ、トラクタヘッド等の輸送機材の確保、配置（連結検討、特殊車両通行許可） ○混載能力を持つ境港側フォワーダーの業務拡充・誘致 ○仕向地側フォワーダーとの連絡運輸協定の推進 ○港湾エリア内の施設再配置 <ul style="list-style-type: none"> 小口貨物の混載に対応した積み替え・保管施設の整備 冷凍・冷蔵貨物向けリーファー電源の設置 木材、農産品等に対応した作業スペースの確保 建機、農機等に対応した自走機械向け上屋の整備 旅客との動線分離 ●竹内南地区の RORO 船対応ターミナル整備 	<ul style="list-style-type: none"> 物流拠点形成促進事業（管理組合） ふ頭再編改良事業（国交省、管理組合）

